



— ふくし学習第5弾！（盲導犬教室 4年生） —



9日（水）の5・6校時に、盲導犬教室が開かれました。福井市にお住まいの早苗さんが講師でやってこられました。そして、盲導犬の「ピノ」もやってきました。（犬種は、ラブラドルレトリバーです。）学校では、盲導犬についてお話が聞ける機会はそんなに多くないので、全校でお話を聞くことにしました。

盲導犬の「ピノ」は、やはり盲導犬らしく大変おとなしく、そして早苗さんの方を常に気づかって、今自分が何をすれば良いのかを考えているようでした。とても優秀だと思いました。

今日は、この盲導犬について、色々と聞かせていただきました。

まず、私たちが、盲導犬とまちで出会った時はどうすればいいのかを聞かせていただきました。

「騒がないことが大事。」大きな音が聞こえても、騒がない盲導犬ですが、やはりストレスになることが大きいそうです。「盲導犬だ。」と言って騒いで近づいたりするのはやめてほしいそうです。

また、ハーネスをつけているときは、盲導犬は「お仕事」という意識を持っているそうです。だから、盲導犬を触ったりしないでほしいということでした。



その後、盲導犬の育成についてのDVDを見て、早苗さんの盲導犬との暮らしについてお話を聞きました。そのお話の中で、「盲導犬がいるからこそ外に出て行くことができ、世界を広げることができた。」とおっしゃっていたことがとても印象的でした。早苗さんと事前に校長室でお話をさせていただきましたが、毎日のように出かけられ他の方の支援ボランティアや趣味の英会話やピアノなどたくさんの活動をしているそうです。すごくエネルギッシュで、行動力のある方だと思いました。早苗さんにとっては、盲導犬がなくてはならない存在なんだと思いました。

最後に、盲導犬と一緒に歩きました。盲導犬は、前に歩いている人について歩くことができるそうで、体育館を一周しました。前を歩き誘導する人2人と早苗さんに肩を貸す人1人で行いました。盲導犬は、前の子を意識しながらそれでいて隣を歩く早苗さんも意識しながら歩くことができていました。

そして、早苗さんも盲導犬のピノも本当に素晴らしいなと、感心するばかりの一日でした。

